

重点テーマである「素材系を中心とした収益力強化」と「経営資源の効率化と経営基盤の強化」を、2020年度までに完遂するとともに、自動車軽量化戦略などの継続的なテーマに取り組むことで、社会課題解決への当社独自の貢献と企業価値向上を追求していきます。

株式会社神戸製鋼所 代表取締役社長

山口 貢



株主の皆様には、日頃から格別のご高配を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

2019年度上半期の業績やトピックスなどをご報告いたしますので、是非ご覧いただきたく存じます。

当期の業績及び当期の配当について

さて、当社グループの当上半期の連結業績につきましては、後述の「業績のご報告」でご説明いたします通り、売上高は前年同期に比べ137億円減収の9,444億円、営業利益は同156億円減益の74億円、経常利益は同78億円減益の14億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ396億円悪化の62億円の損失となりました。

続いて、当期の業績見通しにつきましては、米中貿易摩擦の影響などで世界経済全体が減速していることから、先行きが不透明であること、特に鉄鋼において、海外自動車向けなどを中心に需要の減少が見込まれることや、アルミ・銅において半導体・IT向けの需要回復が遅れていることによる数量減に加え、海外子会社での設備トラブルの影響が想定より長引いていることなどから、引き続き厳しい見込みとなっております。

そのため、売上高は1兆9,700億円程度、経常損益は0億円程度、また親会社株主に帰属する当期純損益は、当上半期で特別損失として計上した投資有価証券評価損などを織り込んだ結果、50億円程度の損失を見込んでおります。

これを受け、当期の中間配当につきましては、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に勘案した結果、誠に遺憾ながら見送ることといたしました。株主の皆様のご期待に添うことが出来ず誠に申し訳ございませんが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当社の経営課題について

先に申しあげた通り、経済環境などの外部環境に不透明感が強まる中、当社グループにおいては、設備稼働率の低迷など「ものづくり力」に関わる課題も顕在化しております。こうした課題のうち、例えば、設備トラブルの影響が長引いている海外子会社につきましては、生産体制の早期の立て直しに向け、日本からの支援も含め、グループを挙げた緊急対応を実施しております。加えて、コストの削減についても既に検討を開始しており、ものづくり力の強化に必要なコスト水準を見極めつつ、スピード感を持って着手してまいります。

また、本年5月に「2016～2020年度グループ中期経営計画」の総点検*を実施いたしました。 「素材系を中心とした収益力の強化」と「経営資源の効率化と経営基盤の強化」が最重要課題であると確認しており、現在様々な取り組みを行っております。

その中でも、素材系事業の収益力強化の大きな柱である鉄鋼とアルミ・銅事業部門の組織改編につきましては、2020年4月の実施に向けて計画通りに進捗しております。

加えて、グループ会社の再編にも着手しており、当上半期において、銅管子会社の売却など具体的な意思決定をいたしました。また、政策保有株式の売却など経営資源の効率化も前倒しで進めております。



社長と部長・係長クラスとの対話の様子

信頼回復に向けて

2017年10月に公表いたしました当社グループにおける品質不適切行為によって失った信頼を回復することは、当社グループの企業価値向上のためには何よりも重要です。現在、社員意識・企業風土の改革に向けて、私を含む経営幹部がグループ社員と直接語り合うことで、不適切行為と決別する姿勢を共有するとともに、変化への意欲や健全な危機意識を決して風化させることのないよう取り組んでおります。また、製造現場での困りごとを放置しないための取り組みや、試験・検査機器などの導入・増設による試験・検査データの不適切な取り扱い機会の排除なども順次進めてきて

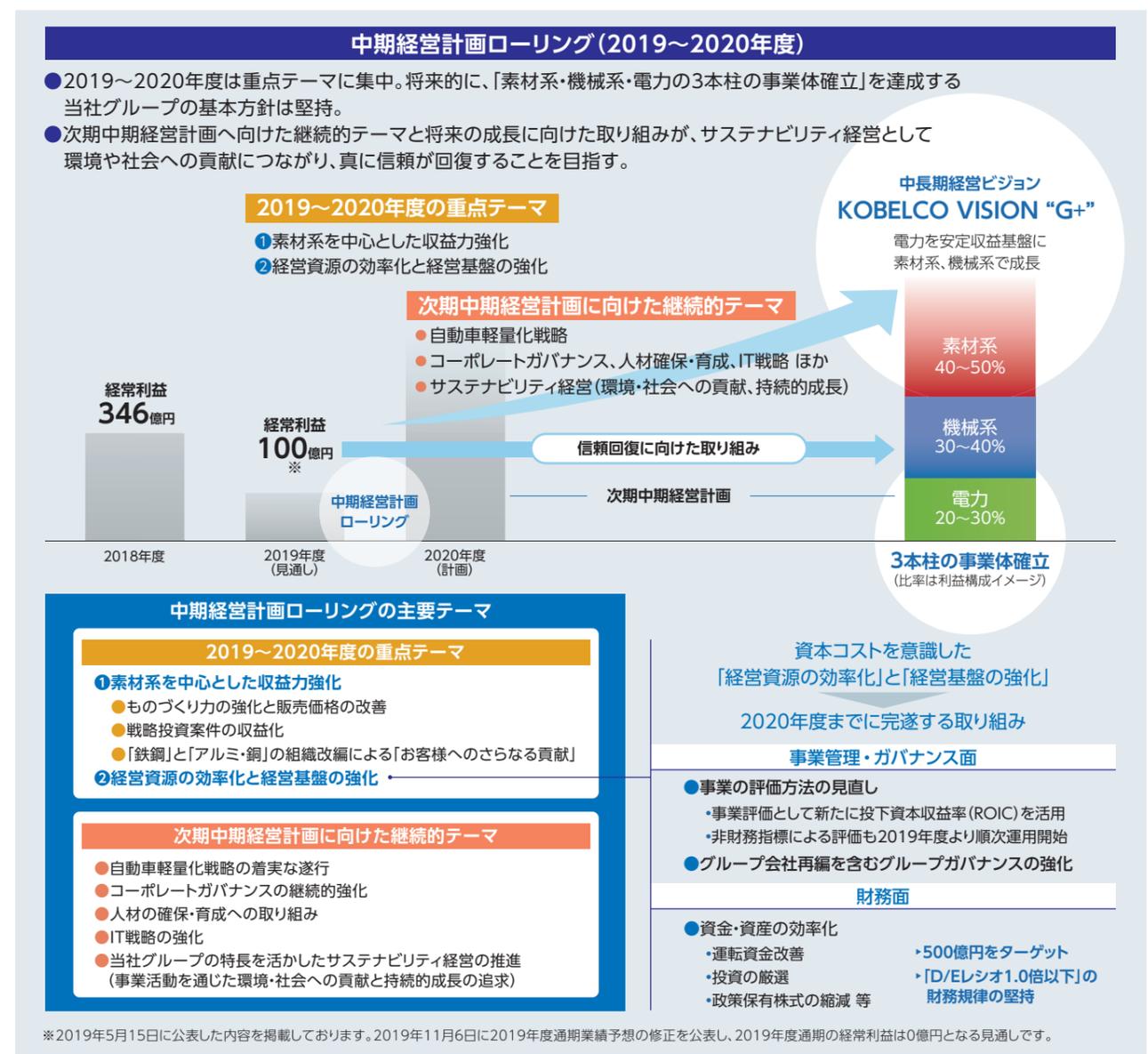
おります。引き続き、危機意識をもってこれらの取り組みを進めてまいります。

2019年度から2020年度にかけての2年間は、信頼回復と将来の飛躍に向けての大切な時です。事業環境が厳しい今こそ、私たち経営陣は、将来における当社グループの安定と成長を見据えながら、足下の課題解決に全力で取り組んでいく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2019年12月

*【中期経営計画ローリング】として2019年5月15日に公表しております。(以下もご覧ください。)



▶ **関連リンク** 「神戸製鋼グループ 統合報告書2019」では、さらに詳しい情報を掲載しています。
(QRコードを読み取っていただくと、統合報告書ウェブサイトへアクセスできます。)

● P.40 中長期経営ビジョン KOBELCO VISION "G+" ● P.42 中期経営計画ローリング

*QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。